

高校生とものづくり

由利工高 小学生31人が挑戦

小学生が工作などものづくりに挑戦するイベントが11日、由利本荘市石脇の由利工業高校で行われ、児童31人が

高校生の手ほどきを受けながら実験装置などを作った。

児童の保護者25人も参加。

4グループに分かれ、リニアモーターカーを模した実験装置やログハウス形の貯金箱を作った。由利工高の2、3年生が作業を補助した。

実験装置は、磁界の中で電流を流すと力が生じる原理を活用。磁石やアルミホイールで作った線路に電流を流し、その上にアルミホイールを巻いたつまようじやスポンジを載せ

ると左右に移動するもので、参加者は「動いた！」などうれしそうに何度も試していた。

貯金箱は、市販のキットを使用。図面を参考に接着剤で部品を組み合わせ、ログハウスの形の貯金箱を完成させた。貯金箱を作った尾崎小4年の石黒智花さん(9)は「ログハウスの屋根の段差を作るのが難しかった。高校生のお姉さんたちが優しく教えてくれた」と話した。

イベントはものづくりに興味を持ってもらおうと、毎年開催している。

(進藤麻斗)



由利工高の生徒(右)と協力して装置を作る参加者